

## 5 教職員研修の充実

～研修しながら実践し 実践しながら振り返る ことが大切です～

### (1) 教職員研修のねらいや内容

研修のねらいや内容は、各学校がその実態や実践上の課題等に応じて適切に定めていくべきものである。そのため、教職員は、学校において定めるキャリア教育の目標、育成したい能力や態度、キャリア教育の教育課程における位置付け、各教科等との関連、全体計画・年間指導計画・単元の指導計画の作成、評価などについての認識を深めておく必要がある。

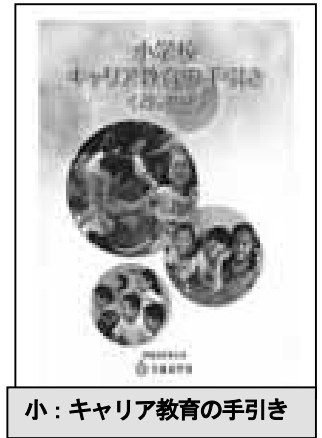
研修内容やその進め方については、できるだけ実践する教員の希望に沿ったものとしたい。

### (2) 教職員研修の実施形態

全体研修、学年単位や教科単位（中）、課題別グループ単位などの少人数での研修を、それぞれの課題に応じて計画的、弾力的に実施していくことが大切である。具体的な研修の推進は、校内に設置されたキャリア教育推進委員会の主任が中心となっていく。自校の実態に合った、無理のない、しかし中身の充実した研修を積み重ねていきたい。研修方法は、研修対象者とねらい（時期）によって、いくつかの形態が考えられる。

（長野県キャリア教育ガイドライン、文部科学省発行「キャリア教育の手引き」小 p28、中 p60 参照）

研修対象者	ね ら い (時 期)	実 施 形 態
全職員	①長野県キャリア教育ガイドラインの内容を理解する。(キャリア教育の概念、長野県のキャリア教育の目標、方針等)	①校内講師(キャリア教育推進委員会の委員)による解説・・・長野県キャリア教育ガイドラインを活用する。
全職員	②キャリア教育が求められる背景や基本的な理念について学ぶ。	②外部講師による講義(DVD視聴)グループ協議・まとめ(約60分) 参考DVD:キャリア教育の進め方(次ページ参照)
全職員	③自校のキャリア教育について考える(各自のイメージ・自校の子どもの実態・課題・育成したい能力・態度等)	③付箋を使ったワークショップ型グループ協議
全職員	④自校のキャリア教育の目標を設定して、目指す児童・生徒像を明らかにする。	④事前アンケートで意見を集約 小グループでアンケート結果を検討、全体で協議
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           学年会や教科会(中) 課題別グループ単位         </div> <div style="text-align: center;">↓ ↑</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           キャリア教育推進委員会         </div> <div style="text-align: center;">↓ ↑</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           全職員         </div>	⑤キャリア教育の視点に立った授業づくりを少しずつ推進する。 (初めから完成版を求めない) ○今までの活動をキャリア教育の視点から見返して、適切に位置付ける。 ○関連付く内容をつなげていく。  ○計画→実践→評価・改善→計画を繰り返しながら、少しずつ自校のオリジナルプランを皆で作成していく。	⑤実践を通じた教育課程編成 ◇学年会や教科会(中)、課題別グループ単位で企画したプランをキャリア教育推進委員会を經由して全職員で検討。  ◇以後、各学級・学年で実施。  ◇評価・改善策を学年会や教科会(中)、課題別グループ単位で検討。 キャリア教育推進委員会を經由して全職員で協議し、自校のオリジナルプランへ。
小中教員、保護者、地域の方々	⑥家庭や地域との効果的な連携	⑥講師(企業人やキャリア教育関係者)を招いて、講演会を実施。
全職員	⑦キャリア・カウンセリングについて理解し、その実際を学ぶ。	⑦校内講師(キャリア教育推進委員会の委員)が推進 ※キャリア教育の手引き 小 p30、98、中 p126～参照



小：キャリア教育の手引き

※その他の研修として考えられること

- キャリア教育研究実践校の研究発表への参加・・・キャリア教育推進委員または全職員
- 小中合同研修会での研修・・・全職員（あるいは、小中連携の分科会の1つにキャリア教育を入れる）

(3) 教職員研修事例

① DVD「キャリア教育の進め方 —よくわかるキャリア教育—」の活用

(独立行政法人 教員研修センター制作 (500 円)、申込用紙は教員研修センターHP からダウンロード、FAX で申込、3 日後には届きます)

例1 「今、なぜキャリア教育か考える」(約60分)

流れ	研修の進め方
1 DVD 視聴 (30分)	○キャリア教育をめぐる諸問題を概観させる。(28分27秒) ※DVD 「第3章 学力低下をめぐる懸念」(11分40秒) 「第4章 キャリア教育に関する誤解」(12分10秒) 「第5章 キャリア教育と進路指導」(4分37秒)
2 グループ協議 (15分)	○キャリア教育の現状について協議させる。
3 まとめ (15分)	○校内講師(キャリア教育推進委員会の委員)によるまとめを行う。 ※DVD 「第1章 キャリア教育とは何か?」を視聴する。(7分35秒)



例2 「職場体験活動における事前・事後指導を充実させるために」(約60分)

流れ	研修の進め方
1 校内講師による説明 (10分)	○中央教育審議会答申や学習指導要領では「体験活動の充実」がどのように示されているか、また職場体験活動を実施する上での事前・事後指導の必要性を確認する。(校内講師は、事前に資料準備、事前配布)
2 DVD 視聴 (2分)	※DVD 「第7章 職場体験活動(事前・事後指導の在り方)」 Q 職場体験活動で重要なことは何ですか?」を視聴する。(1分35秒) → 一時停止
3 課題提示 (15分)	○「事前・事後指導では、どのようなことがらに留意すればよいか」について各自の考えをまとめ、複数の参加者に発表させる。
4 DVD 視聴 (8分)	○事前・事後指導の留意事項を確認する。 ※DVD 「第7章 職場体験活動(事前・事後指導の在り方)」 Q 職場体験活動における事前指導と事後指導の留意点は何か?」を視聴する。(5分45秒)
5 課題の見直し (5分)	○DVD を視聴した上で、改めて留意点を見直させる。
6 共有 (10分)	○複数の参加者に、職場体験活動を充実させるための留意点を発表させる。
7 まとめ (10分)	○これまでの自校の取組状況・地域との連携等について講師によるまとめを行う。

② 小中一貫(連携)のキャリア教育を進めるための教職員連携プログラム

※H23 教育指導時報 9月号 p23～ 飯田西中学校と丸山小学校の実践事例参照

(4) 校内研修の進め方・・・具体は(2)(3)参照

- 一人の十歩より、十人の一歩ずつを大事にする。(共に歩まんの雰囲気)
- キャリア教育推進委員会が主体性を発揮し、校内研修(参加型)を工夫していく。
- 情報はこまめに提供、資料は事前配布、お互いが読んでから参加する。(段取り力が大切)
- 各学年、各学級の計画・実践記録・児童生徒作文・映像記録・参考文献等は、共有フォルダに一括管理。現物でも、職員室にキャリア教育情報コーナーを設置して整理・保存する。

(5) 飯田西中学校区における「キャリア教育合同研修会」の実践事例（小中連携して推進）

○ キャリア教育合同研修会の様子

小学校、中学校の職員が一堂に会して、キャリア教育への理解を深めるとともに、研究の方向を確認し合うための研修会が平成22年度から年2回開かれています。本年度からはこの会に、学区内にある羽場、丸山地区の公民館長、そして両校のPTA役員が加わりました。学校だけでなく、地域や保護者が一体となって小中一貫のキャリア教育を進めていくことが大切だからです。

本年度5月に開かれた会では、小中一貫教育に先進的に取り組んでいる学校の実践をお聞きしたり、本年度の研究の進め方を確認したりしました。その後、グループ毎に分かれて話し合いを持ちました。話し合いでは、キャリア教育全般にわたって熱心に意見交換がなされました。今年入学した中学1年生の様子、来年度中学に入学する6年生の様子、かざこし学習の取組の様子、あるいはキャリア教育の意義に関わることなど、多岐にわたって情報交換がなされました。時間の都合で、話し合いが盛り上がり過ぎてきたときに終了しましたが、今後、両校が共同して研究を進めていく上ではよい交流になったように思います。

合同研修会はこれで3回目になりますが、会を重ねる度に「小中の垣根」が低くなっていくように思います。また、職員の発言からは「6年間」「3年間」という枠組みの中だけで子どもを見るのではなく、「9年間」という長いスパンの中で子どもを見ていくことの大切さが伺えました。

（飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 地育力向上係）

平成23年度 教職員結いプログラム（※）

プログラム名	時期	会の内容
キャリア教育合同研修会 （全教員対象） （年2回）	5月 8月	○キャリア教育の小中一貫の取組について理解を深める。 ○小中で抱えている課題について話し合う。
キャリア教育 小中連携協議会 （年3回）	5月 10月 1月	○丸山小・飯田西中学校区における小中一貫のキャリア教育の取組の方向を検討する。
結い交流プログラム 推進委員会（小中連絡会） （年3回）	5月 11月 1月	○「結い交流プログラム」の方向を検討する。 ○中1ギャップの現状と対策について話し合う。
幼保小中連携推進委員会 （年2回）	6月 1月	○幼保小、小中の連携の方向について検討する。 ○小1ギャップ、中1ギャップにかかわる情報交換をする。
授業研究会（年2回）	10月（西中） 11月（丸山小）	○キャリア教育に関わる研究授業を実施し、キャリア教育に関わる指導のあり方を深める。

※ 教職員結いプログラム（小中一貫のキャリア教育を進めるための教職員連携プログラム）について

(1) 教職員連携の必要性

小中一貫教育を進めていく上で、小学校、中学校の教職員の連携は欠くことができない。両校の職員が目的を共有し、同一歩調で推進していく必要があるからである。次のような面での連携が必要と考えている。

- I キャリア教育全般にかかわる共通理解
- II 目指す児童・生徒像の共有（キャリア教育で育みたい能力・態度の共有）
- III 丸山小、飯田西中で進めているキャリア教育の取組の共有
- IV 「かざこし学習」にかかわる地域資源の共有
- V 具体的な授業を通して、児童・生徒観、教材観、指導観の共有

(2) 「教職員結いプログラム」の内容

昨年度から、今まで行われてきた小中の教職員の連携活動について、さらにキャリア教育の視点を加えて充実させていこうと、内容等を検討してきた。これらの連携活動を「教職員結いプログラム」と呼んでいる。

